

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名:公益財団法人 新宿未来創造財団

1. 事業の概要

事業名称	「はじめてしゃべる日本語クラス」 ゼロ初級者ならびに日本語初学者対象の日本語支援事業
事業の目的	新宿区は、在住外国人比率が12.4%(平成31年1月1日現在)と高く、国籍は136ヶ国に上り、在住外国人が流動的であるという特色を持っている。そのため、グループ学習を実施している既存の新宿区日本語教室でも学習者の入れ替わりが激しく、日本語能力のレベルも様々である。特に日本語最初心者が入室した場合、ボランティアが彼らへの対応に苦慮している状況が多く見受けられた。このような状況を鑑み、日本語最初心者対象の教室を開設し、彼らが学習しやすい環境を整える。同時に、ボランティアが支援に必要なスキルを習得できるよう支援する。 平成29年度と30年度に日本語最初心者を中心としたクラスを実施してきたが、実際には日本語最初心者とともに、日本語を自己流で習得した外国人が多く参加する結果となった。このような外国人は、日本語最初心者に比べて日本語発話能力にバラつきがあるため、日本語最初心者よりコミュニケーションを取るのが難しい場合がある。そこで本事業では、このような外国人も受け入れ、日本語発話能力のバランスを整える支援活動も実施する。 なお、平成30年度に引き続き、新宿区内の日本語教室と連携して、「はじめてしゃべる日本語クラス」事業を基盤とした地域日本語教室のネットワーク化を図り、「新宿」という地域全体で学習者のニーズに合った教室を選択できるような体制を整備していく。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	支援員が初めて日本語を学習する外国人をいかに理解し、負荷を多く与えずに支援していくかが課題となっている。これまでの支援の中で、日本語の知識を一方向的に学習者に伝えることに終始した結果、学習者が途中で継続できなくなるケースが見受けられた。そのため、彼らが日本語を話す第一歩を恐れずに踏み出すために、彼らに寄り添った支援ができる支援員の育成が必要である。また、新宿区全体において、様々なレベルの学習者に対する包括的な支援体制も不十分である。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	平成29年度と30年度に引き続き、日本語最初心者を中心とした教室を実施した。特に「日本語を聞く・話す」を重点的にを行い、日本語でのコミュニケーションが取れるような機会を提供した。具体的には、まず日本語を「聞く」ということに加え、日本語学習の面白さを体験できるような内容と、日本語学習を継続してもらえるような雰囲気づくりを重視した。これにより、日本語学習へのモチベーションを高め、このクラスである程度の基礎を作り上げていくことができれば、区内にある既存の日本語教室を案内し、さらなる日本語習得の機会を提供した。また、教室運営にあたる支援員の育成については、教室とフォローアップ研修を両立させることで、日本語最初心者への対応スキルの向上を目指した。 さらに、支援員が学習者の状況を把握するためにコミュニケーションシートを作成し、学習者の意欲や習熟度、クラスでの様子を支援者同士で共有した。クラスではグループ学習を基本にしながらも、必要に応じて2対1や1対1といった個別支援も行った。
事業の実施期間	2019年5月～2020年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 健人	関東学院大学教授
2	足立 章子	国際交流基金研究員
3	関口 明子	国際日本語普及協会理事長
4	ブパール・マン・シュレスタ	(株)GMTインターナショナル常務取締役
5	神崎 章	新宿区多文化共生推進課長
6	米田 雅朗	新宿区立大久保図書館長
7	諏訪 丹美	新宿未来創造財団地域交流担当参事役
8	岸田 心	新宿未来創造財団地域交流課長
9	森田 康敬	新宿未来創造財団多文化共生担当課長
10		



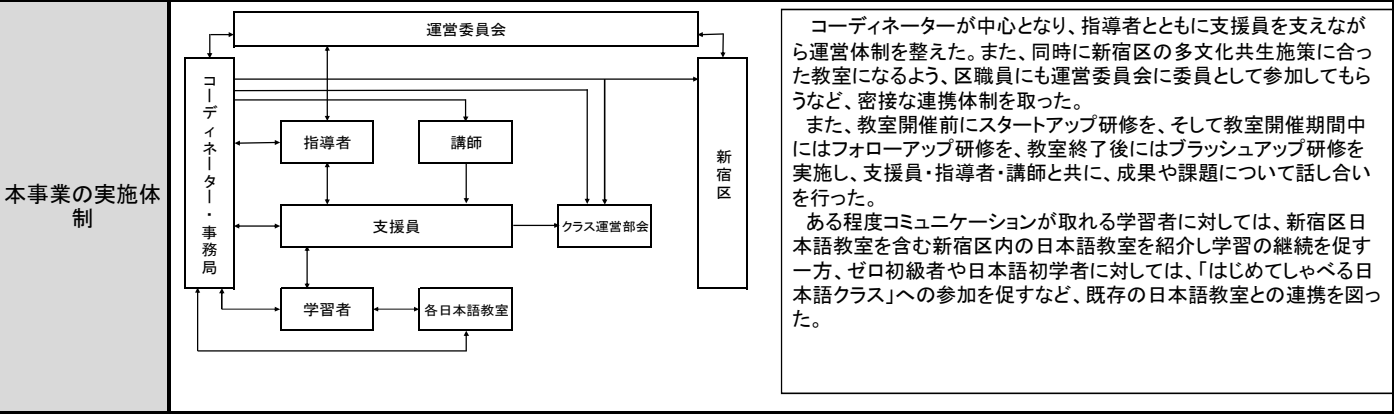
【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年5月30日 (木) 19:00～20:39	1時間39分	新宿コズミック スポーツセンター 指導員室	伊藤 健人、足立 章子、 関口 明子、神崎 章、 米田 雅朗、諏訪 丹美、 岸田 心、森田 康敬	1.運営委員会設置規約について 2.「はじめてしゃべる日本語クラス」概要説明 3.文化庁補助金終了後の事業のあり方について
2	令和元年9月26日 (木) 19:10～20:23	1時間13分	新宿コズミック スポーツセンター 指導員室	足立 章子、ブパール・マン・ シュレスタ、神崎 章、 諏訪 丹美、岸田 心、 森田 康敬	1.「はじめてしゃべる日本語クラス」実施状況報告 2.文化庁補助金終了後の事業のあり方について
3	令和2年2月20日 (木) 19:00～20:08	1時間8分	新宿コズミック スポーツセンター 小会議室	伊藤 健人、足立 章子、 関口 明子、ブパール・マン・ シュレスタ、神崎 章、 米田 雅朗、諏訪 丹美、 岸田 心	1.「はじめてしゃべる日本語クラス」実施状況報告 2.今後の方向性について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	①新宿区地域振興部多文化共生推進課・・・既存の日本語教室の運営及び外国人支援の方針を検討 ②新宿区日本語教室(SJC)、新宿日本語ネットワーク、区内ボランティアによる日本語教室 ・・・はじめてしゃべる日本語クラス修了後の学習者の受け入れ先として継続した日本語支援を実施 ③国際日本語普及協会・・・ブラッシュアップ研修講師
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制



3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称: はじめてしゃべる日本語クラス(朝クラス)】										
目的・目標	日本語での会話がほとんどできない日本語学習希望者及び日本語初学者に対し、日本語を話すきっかけを与え、発話を積極的に行えるような仕組みを構築していく。									
内容の詳細	平成29年度と30年度で作成したテキストを支援の核にしなが、日本でより便利に、より快適な生活が自立して行えるように支援を行った。 語彙は衣食住を始めとした身近なものを取り上げ、音声は自分の発した日本語の音を自分の耳で聞き、その音に慣れていくよう、支援者は学習者のリピートや自発的な発話を待つ姿勢を心がけた。文法は活用の難易度が低く、かつ汎用性が高いものを多く取り上げ、実用に結び付けた。文字、特に漢字は一種の記号として捉えることも視野に入れ、文字の存在に学習者が躓かないように配慮しながら、音声と文字が一致できるよう支援した。これら4大要素を相互にリンクさせながら、学習者が日常的な買い物や通院、地域コミュニティでの生活などを自立して行える総合的な日本語力の向上を支援した。 また、学習者が自分の生活するエリアに身近さや安心感を感じられるようなトピックを使用した。 さらに、日本語で窮屈な思いをしないように、ゲームなどを取り入れながら教室を心休まる楽しい場にするこで、学習者に継続して足を運んでもらい、それが結果的に日本語力の向上に繋がるような教室運営を目指した。 教室を、学習者が発話することで「これができる、手に入れられる」という成功体験を重ねる場とし、学習者が教室外でも積極的に発話できることを目指した支援を行った。									
実施期間	令和元年7月2日～令和元年11月19日				授業時間・コマ数		1回 2時間×20回＝40時間			
対象者	日本語ゼロ初級者並びに日本語初学者				参加者		総数 48人 (受講者 34人、指導者・支援者等 14人)			
カリキュラム案活用	「日本語教育のプログラムの作成手順」を使用して、繰り返し改善をしながらカリキュラムを組んだ。 「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」を参考にして、会話の中で多く使われる語彙、短文を抽出し、プログラムに取り入れた。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	7	6	0	2	0	1	0	1	0	0
	台湾3、バングラデシュ2、フランス2、スペイン1、ベルギー1、カナダ1、アメリカ1、メキシコ5、チリ1									

日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年7月2日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	3	自己紹介	支援者が自己紹介の手本を見せ、名前や出身、プラザまでの交通手段、趣味などについて学習者が各々自己紹介。その後は支援者が学習者に質問しながら会話の練習	大川内、竹内、辻、原、平松、池内、磯貝、川久保、杉原、長澤、福島、三武	森田 康敬・水城 浩治 小林 久夫・中山 智子		
2	令和元年7月9日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	8	旅行先趣味 自国の紹介	5グループに分かれて、日本で旅行した場所や趣味、自国の紹介(料理、地理、お祭りなど)等を題材に会話の練習	竹内、辻、原、池内、磯貝、杉原、長澤、福島、三武	中山 智子		
3	令和元年7月16日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	7	自己紹介 美味しい表現	前半は6グループに分かれてレッスン後半は全体ワークで自己紹介と各国の「美味しい」の表現などを題材に会話の練習	大川内、竹内、辻、原、平松、池内、磯貝、川久保、杉原、福島、三武	中山 智子		
4	令和元年7月23日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	10	語彙の作成	前半はグループに分かれてレッスン後半は全体ワークで五十音図の3行だけを使って語彙作成ゲームを実施	大川内、竹内、辻、原、池内、磯貝、杉原、長澤、福島、三武	小林 久夫		

5	令和元年7月30日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	12	自己紹介 語彙の作成	前半は8グループに分かれてレッスン 後半は全体ワークで自己紹介、ホワイトボードに張ったあ～さ行のひらがなカードを使って語彙作成ゲームを実施	大川内、竹内、辻、原、平松、池内、磯貝、川久保、杉原、長澤、三武	中山 智子
6	令和元年8月6日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	16	語彙の作成	前半は8グループに分かれてレッスン 後半は全体ワークで先週の続きで、た～は行のひらがなカードを使って語彙作成ゲームを実施	大川内、竹内、辻、原、平松、池内、磯貝、杉原、長澤、福島、三武	中山 智子
7	令和元年8月13日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	14	語彙の作成	前半:5グループに分かれてレッスン 後半:全体ワークで先週の続きで、ま～ん行のひらがなカードを使って語彙作成ゲームを実施	大川内、竹内、辻、原、平松、池内、磯貝、川久保、長澤、福島、三武	中山 智子 赤谷 英貴 小林 久夫
8	令和元年8月20日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	7	しりとり	学習者は自分で好きなグループを選び学習 全体ワークでは「しりとり」を実施	大川内、竹内、辻、原、平松、池内、磯貝、川久保、杉原、長澤、三武	小林 久夫
9	令和元年8月27日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	11	体の部位の名称	学習者は自分で好きなグループを選び学習 全体ワークでは体の部位の名称の発話	大川内、竹内、辻、原、平松、池内、磯貝、杉原、長澤、三武	中山 智子
10	令和元年9月3日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	11	自国の説明 日本の観光地 生活で使う動詞	学習者は自分で好きなグループを選び学習 地図を見ながら自国の説明や日本の観光地について、アルバイトについて、起床から就寝までに使用する動詞などを題材に会話の練習	大川内、竹内、辻、原、平松、磯貝、川久保、遠藤、金、杉原、長澤、福島、三武	中山 智子
11	令和元年9月10日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	4	電車の乗換え 日本の観光地 自己紹介の表現や挨拶	学習者が4名であったため全体ワークは行わず、ゼロ初級者はマンツーマンで支援	大川内、竹内、辻、原、平松、磯貝、遠藤、金、杉原、長澤、福島、三武	中山 智子
12	令和元年9月17日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	3	あいさつや乗り物 自己紹介の復習 100までの数 見る、聞く、食べる	学習者が3名であったため全体ワークは行わず、また全ての学習者がゼロ初級者であったため、学習者1名に対し支援者2名で支援	大川内、竹内、辻、原、池内、磯貝、川久保、遠藤、金、杉原、福島、三武	中山 智子
13	令和元年9月24日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	4	面接、マナー 数字の数え方 見る、聞く、食べる	3グループに分かれて会話の練習 A:就職活動に使える面接、マナー、接客等 B:食べ物・飲み物など買い物で使う表現等 C:自分の国の行事や見る、聞く、食べる等	大川内、竹内、辻、原、池内、磯貝、遠藤、金、杉原、長澤、福島、三武	中山 智子
14	令和元年10月1日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	3	電話のかけ方 買い物 観光 日時・曜日	3グループに分かれて会話の練習 A:トラブル時の電話のかけ方、買い物等 B:体の部位とそれを使った表現(頭が痛い等) C:日時・曜日、買い物、お金の数え方等	大川内、原、平松、池内、磯貝、遠藤、金、長澤、福島、三武	中山 智子
15	令和元年10月8日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	3	体の部位 日本のドラマ 家族構成	3グループに分かれて会話の練習 A:体の部位の復習と日にちの言い方等 B:アルバイトや日本のドラマの話等 C:自己紹介から家族構成の表現、数字の読み方等	大川内、原、平松、磯貝、川久保、遠藤、金、三武	中山 智子
16	令和元年10月15日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	3	身の回りの名詞 食べ物、買い物 果物・野菜の名称	3グループに分かれて会話の練習 A:身の回りの名詞や日常使用する動詞・形容詞 B:食べ物、買い物、仕事の内容等 C:数字の数え方、果物・野菜の名称等	竹内、辻、原、池内、磯貝、金、杉原、長澤、福島、三武	中山 智子
17	令和元年10月29日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	2	接客 天気 病気	2グループに分かれて会話の練習 A:仕事に合わせた接客やスタッフとの会話等 B:天気や体の部位と病気の症状、食べ物等	大川内、竹内、平松、池内、川久保、遠藤、金、三武	中山 智子
18	令和元年11月5日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	3	生活 友人 旅行	3グループに分かれて会話の練習 A:生活の様子やよく使う日本語表現等 B:〇日～〇日まで、誰と、～しました C:敬語や謙譲語の使い方	大川内、竹内、原、平松、池内、杉原、長澤、福島	中山 智子
19	令和元年11月12日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	1	買い物 教科書	仕事先の出来事から買い物全般、小学2年生の教科書にある「ふきのとう」の読みと学習	竹内、辻、原、磯貝、遠藤、福島	中山 智子
20	令和元年11月19日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生ブラザ	1	生活 食べ物	仕事先での出来事や日本での生活、食べ物	大川内、池内、磯貝、福島、三武	中山 智子 高橋 行弘

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第5回 令和元年7月30日】

前半は、AからHの8グループに分かれて会話の練習を行った。

Aグループは、さくらマップを使って日本の花見の名所についてなど、Bグループは、時間(午前、午後、朝・昼・夜)や日本での生活や旅行したい場所についてなど、Cグループは、会話を通して正確な発音や文章を作る練習、Dグループは、パンクラデシュの食べ物や日本地図、「～そう」の表現方法の練習、Eグループは、数字、曜日の言い方、好きな色・食べ物をにほんご絵じてんを見ながら練習、Fグループは、時間の正しい言い方や簡単な日常会話と漢字の練習、Gグループは、自己紹介、家族や仕事について、Hグループは、自己紹介、出身地、日本での生活等について

後半は、全体ワークで自己紹介、あ～さ行のひらがなカードをホワイトボードに張り、それを使って語彙作成ゲームを行った。



○取組事例②

【第10回 令和元年9月3日】

初級2名は、韓国語・英語も交えマンツーマンで自己紹介と簡単な挨拶表現を練習した。他の4グループは、支援者2名、学習者2名の体制で会話の練習を行った。

Aグループは、地図を見ながら自国の説明、日本と学習者の国の鉄道の違いやお互いの国の鉄道について

Bグループは、最近やったことやスポーツについて、「～したことがあります・ありません」を使って文章を作成

Cグループは、日本の観光地やアルバイトについて、学習者の発話を促しながら練習

Dグループは、起床から就寝までで使用する動詞(起きます、食べます、寝ます等)を中心に練習

全体ワークでは、絵カードを見て知っている単語を使って発話の練習を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・多くのボランティアが教室運営に参加した。
- ・日本の生活習慣や生活情報などを紹介するなど、ボランティアが創意工夫をしながら教室を運営することができた。
- ・朝の学習者が比較的長く「通う」のに対し、夜の学習者は3～4回「来る」傾向があることが分かった。
- ・実際に支援で取り組んだ内容を取りまとめた『ICAN(アイキャン)リスト』を作成した。

(3) 今後の改善点について

- ・より多くの方に学習機会を提供するため、周知活動を強化する必要がある。
- ・新宿区は学習者の流動性が高い地域であることから、学習者の実態に即した支援を検討していく必要がある。
- ・ボランティアとともに作成した『ICAN(アイキャン)リスト』をさらに普及させていく必要がある。

日本語教育の実施【活動の名称:はじめてしゃべる日本語クラス(夜クラス)】

目的・目標	日本語での会話がほとんどできない日本語学習希望者及び日本語初学者に対し、日本語を話すきっかけを与え、発話を積極的に行えるような仕組みを構築していく。		
内容の詳細	平成29年度と30年度で作成したテキストを支援の核にししながら、日本でより便利に、より快適な生活が自立して行えるように支援を行った。 語彙は衣食住を始めとした身近なものを取り上げ、音声は自分の発した日本語の音を自分の耳で聞き、その音に慣れていくよう、支援者は学習者のリピートや自発的な発話を待つ姿勢を心がけた。文法は活用の難易度が低く、かつ汎用性が高いものを多く取り上げ、実用に結び付けた。文字、特に漢字は一種の記号として捉えることも視野に入れ、文字の存在に学習者が躓かないように配慮しながら、音声と文字が一致できるよう支援した。これら4大要素を相互にリンクさせながら、学習者が日常的な買い物や通院、地域コミュニティでの生活などを自立して行える総合的な日本語力の向上を支援した。 また、学習者が自分の生活するエリアに身近さや安心感を感じられるようなトピックを使用した。 さらに、日本語で窮屈な思いをしないように、ゲームなどを取り入れながら教室を心休まる楽しい場にする事で、学習者に継続して足を運んでもらい、それが結果的に日本語力の向上に繋がるような教室運営を目指した。 教室を、学習者が発話することで「これができる、手に入れられる」という成功体験を重ねる場とし、学習者が教室外でも積極的に発話できることを目指した支援を行った。		
実施期間	令和元年7月2日～令和元年11月19日	授業時間・コマ数	1回 2時間×20回＝40時間
対象者	日本語ゼロ初級者並びに日本語初学者	参加者	総数 61人 (受講者 47人、指導者・支援者等 14人)

カリキュラム案活用	「日本語教育のプログラムの作成手順」を使用して、繰り返し改善をしながらカリキュラムを組んだ。 「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」を参考にして、会話の中で多く使われる語彙、短文を抽出し、プログラムに取り入れた。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	19	3	0	0	3	3	2	0	2	0
	香港3、台湾3、インド1、バングラデシュ4、エスワティニ1、フランス1、ロシア1、アメリカ1									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年7月2日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	4	自己紹介	3グループに分かれて自己紹介の練習。その後、全員で輪になって自己紹介。最後に3つのグループに分かれて自己紹介。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、長谷川	叔 焱・岸田 心・高橋 行弘 赤谷 英貴・小林 久夫	
2	令和元年7月9日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	13	自己紹介	前半は5グループに分かれて自己紹介の練習。後半は全員で自己紹介の後、グループに分かれて自分で関心を持っていることについて学習。		上田、狩俣、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、長谷川	叔 焱、水城 浩治	
3	令和元年7月16日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	12	絵カード・地図 耳と口に集中	絵カードや地図を使ったり、ツールを使わずに耳と口に集中させたり、各グループが目の前にいる学習者の状況を見ながら支援。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、丸山、長谷川	小林 久夫	
4	令和元年7月23日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	12	物の名称 曜日	物の名称を中心に学習。初級レベルに近い学習者には、文法を交えて支援。		上田、狩俣、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、長谷川	赤谷 英貴	
5	令和元年7月30日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	17	数字 旅行先	6グループに分かれて会話の練習。北海道や沖縄など、自分が行ったことのある地名や食べ物の話などから会話の練習。		上田、狩俣、西村、松岡、郭、高野、中島、福田、米田、丸山、長谷川	高橋 行弘	
6	令和元年8月6日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	16	仕事 1週間の出来事 近くの遊べる場所	6グループに分かれて会話の練習。仕事や1週間の出来事、近くの遊べる場所についてなど身近な話題から会話を広げていて、良い雰囲気であった。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、高野、中島、福田、美濃部、米田、丸山、長谷川	水城 浩治 赤谷 英貴 小林 久夫	
7	令和元年8月13日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	13	五十音 絵カード カレンダー	4グループに分かれて、絵カードやカレンダーを使って会話の練習。後半は全体ワークのしりとりゲームで出た単語の意味を確認しながら会話の練習。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、丸山	叔 焱	
8	令和元年8月20日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	10	しりとり(あ行) 家系図	5グループに分かれて会話の練習。後半は、あ行のしりとりゲームをしながら会話の練習。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、高野、中島、福田、美濃部、米田、丸山、長谷川	叔 焱	
9	令和元年8月27日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	11	自己紹介 五十音 体の名称	6グループに分かれて、自己紹介や五十音、体の名称について会話の練習。絵カードや絵辞典、絵本などを活用し、クイズ形式で練習。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、丸山、長谷川	叔 焱	
10	令和元年9月3日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	10	自己紹介 五十音 しりとり(さ行)	ゼロレベルに近い2つのグループは五十音、自己紹介などを中心に会話の練習。他のグループは絵カードを使って会話の練習。後半は、さ行のしりとりゲームをしながら会話の練習。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、丸山、長谷川	叔 焱	
11	令和元年9月10日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	16	自己紹介 五十音 しりとり(た行)	6グループから、さらにレベルによって小グループに分かれて会話の練習。後半は、た行のしりとりゲーム、その後はゲームで出た語彙の意味を確認しながら会話の練習。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、郭、高野、中島、福田、美濃部、米田、長谷川	叔 焱	
12	令和元年9月17日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	12	先週の復習 しりとり(な行)	6グループから、さらに小グループに分かれて会話の練習。後半は、な行(かなり難しかった)のしりとりゲームをしながら会話の練習。		上田、狩俣、西村、松岡、渡辺、郭、高野、福田、美濃部、米田、丸山、長谷川	叔 焱 高橋 行弘	
13	令和元年9月24日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	12	五十音 色・数字 しりとり(は行)	3グループに分かれて、五十音や色、数字、日付など会話の練習。後半は、は行のしりとりゲームで挙げられた語彙を使って会話の練習。		上田、小林、西村、渡辺、高野、米田、長谷川	叔 焱	
14	令和元年10月1日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	14	先週の復習 しりとり(ま行)	5グループに分かれて会話の練習。後半は、ま行のしりとりゲームをしながら会話の練習。学習者からは2枚のホワイトボードがすべて埋まるほどの単語が挙げられた。		上田、狩俣、西村、渡辺、郭、高野、福田、美濃部、米田、長谷川	叔 焱 水城 浩治	
15	令和元年10月8日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	12	先週の復習 しりとり(や、わ行)	5グループに分かれて会話の練習。全体ワークは、や、わ行のしりとりゲーム。後半のグループワークでは挙げられた語彙の意味を確認しながら会話の練習。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、郭、高野、福田、美濃部、米田、長谷川	叔 焱	
16	令和元年10月15日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ	16	先週の復習 インタビュー	7グループに分かれて会話の練習。全体ワークは学習者で順番にペアを作ってインタビュー。		上田、狩俣、小林、西村、松岡、渡辺、高野、福田、美濃部、米田、丸山、長谷川	叔 焱	

17	令和元年10月29日 (火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多 文化共生ブ ラザ	9	先週の復習 語彙出しゲーム	6グループに分かれて会話の練習。全体 ワークでは二つのグループに分けて、語彙 多く出しゲームを行った。	上田、狩俣、小 林、西村、松岡、 郭、高野、福田、 米田、丸山、長谷 川	叔 焱
18	令和元年11月5日(火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多 文化共生ブ ラザ	11	先週の復習 じゃんけんゲーム	最初は6グループ、途中から学習者のレベ ルに合わせて8グループに分かれて会話の 練習。全体ワークではじゃんけん大会を行っ た。	上田、小林、西 村、松岡、高野、 福田、美濃部、米 田、長谷川	叔 焱
19	令和元年11月12日 (火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多 文化共生ブ ラザ	10	先週の復習 絵しりとり	5グループに分けて会話の練習。全体ワーク は絵しりとりでとても盛り上がった。	上田、狩俣、西 村、松岡、高野、 福田、米田、長谷 川	叔 焱
20	令和元年11月19日 (火) 18:30～20:30	2	しんじゆく多 文化共生ブ ラザ	10	インタビュー 自己紹介	前半は5グループに分かれて会話の練習。 全体ワークはインタビューシートを使って、 学習者間で移動しながら練習。	上田、狩俣、小 林、西村、松岡、 郭、高野、美濃 部、米田、丸山、 長谷川	叔 焱 高橋 行弘

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和元年7月2日】

まずは三つのグループに分かれて自己紹介の練習を行った。
次に学習者と支援者が輪になって、全員で自己紹介を行った。
終了時間の十分前にまた三つのグループに分かれて、学習者が違う支援者と会話できるようにクループを回って自己紹介を行った。
自己紹介の内容は、名前、国、住まい、趣味、好きな食べ物などについてであった。



○取組事例②

【第11回 令和元年9月10日】

新規2名のうち、北海道から来たロシア人が本日より一回のみの限定で参加した。
いつものように6つのグループに分かれて会話の練習をした。
支援者が3名欠席であったため、学習者が支援者より多い状況であったが、同じグループの中でも言語とレベルによって、さらに小グループに分か
れて行った。
後半は、たのしりとりゲームをした後、ゲームで出された語彙を全員で復唱し、またグループに戻って語彙の意味を確認しながら会話の練習を
行った。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・多くのボランティアが教室運営に参加した。
- ・日本の生活習慣や生活情報などを紹介するなど、ボランティアが創意工夫をしながら教室を運営することができた。
- ・朝の学習者が比較的長く「通う」のに対し、夜の学習者は3～4回「来る」傾向があることが分かった。
- ・運営委員会委員よりアドバイスをを受けて旅行会社や両替所を数か所訪問し教室を周知したことなどにより、夜教室は初回以外はほぼ10名以上が参
加した。
- ・実際に支援で取り組んだ内容を取りまとめた『ICAN(アイキャン)リスト』を作成した。

(3) 今後の改善点について

- ・より多くの方に学習機会を提供するため、周知活動を強化する必要がある。
- ・新宿区は学習者の流動性が高い地域であることから、学習者の実態に即した支援を検討していく必要がある。
- ・ボランティアとともに作成した『ICAN(アイキャン)リスト』をさらに普及させていく必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:スタートアップ研修・フォローアップ研修・ブラッシュアップ研修】										
目的・目標	「スタートアップ研修」では、これから支援を始める際に必要な教室の基本理念や新宿区の地域特性を把握し、それらを踏まえた上での支援について意識や姿勢の統一を図る。 「フォローアップ研修」では、実際に支援を数回行った後に気づいたことや問題について共有し、支援の均質化と向上を図る。 「ブラッシュアップ研修」では、改めて教室運営や支援について振り返り、実際にどのような支援をしたかの記録「ICAN(アイキャン)リスト」を作成する。また、次年度に向けての養成も兼ねて、異文化理解の講座を外部講師を招いて行う。講師選定にはこだわり、経験豊かで、語学の堪能な人を、そして支援者中心の発想から学習者のニーズに着想した支援を志向する内容で実施する。									
内容の詳細	1 研修 「スタートアップ研修」(全3回)は新宿区の地域特性を反映した教室であることを理解できるよう、大久保・百人町地区の外国人集住地域を紹介し、自主フィールドワークを呼び掛けた。また、これまで2年間どのような教室運営であったのか、どのような支援をしていたのかを説明し、支援者の「見えない」不安を取り除いた。 「フォローアップ研修」(全3回)は支援者が主体となり、直面している問題や気づきを忌憚なく発表し合い、答えを出す苦労や課題を乗り越える喜びを共有し、支援のモチベーションを向上させた。 「ブラッシュアップ研修」(全9回)は座学で聞くだけではなく、支援者が自分たちの支援の足跡を見つめ直し、集大成としての「ICANリスト」を作成した。成果物を生み出したことで、自信に繋がられた。また、日本人でも外国人でもない「華僑」としてのアイデンティティから異文化理解や多文化共生を体得できるよう、ワークショップ形式で講座を実施した。 2 養成 「ブラッシュアップ研修」に養成の内容も盛り込んだ。									
実施期間	令和元年6月11日～令和2年1月28日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 15回 = 30時間			
対象者	平成30年度「はじめての日本語クラス」養成講座修了者 平成29年度・平成30年度・令和元年度「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア				参加者		総数 68人 (受講者 63人, 指導者・支援者等 5人)			
カリキュラム案活用	今期は3カ年事業の最終年にあたるため、この2年で蓄積した事例の共有や支援の手法を踏まえた上で、柔軟な運用ができるようノウハウを活用した。在住外国人が流動的であるという新宿区の特性を鑑みても、この2年で大きな変化は見られなかったため、今回もこのノウハウを活かすことができた。今後もこの特性が故の「教室のトレンド」を支援に反映していけるよう、事例の蓄積とノウハウの応用を進めていく。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										63
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年6月11日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	24	実践的な支援方法	1.基本理解と共通認識 2.支援のあり方を探る 3.不安の正体を知る		小林 久夫	高橋 行弘	
2	令和元年6月18日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	24	実践的な支援方法	1.大久保・百人町を知る 2.新宿を知る 3.「まち」を教材にする		小林 久夫	高橋 行弘	
3	令和元年6月25日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	19	実践的な支援方法	第1回と第2回の研修内容を踏まえ、今後の教室運営を考える		赤谷 英貴	森田 康敬	
4	令和元年8月13日(火) 14:00～16:00	2	しんじゅく多文化共生プラザ	24	支援方法の振り返り・再構築	1.支援の見つめ直し 2.教室運営の振り返り		小林 久夫	高橋 行弘	
5	令和元年8月20日(火) 14:00～16:00	2	しんじゅく多文化共生プラザ	24	支援方法の振り返り・再構築	1.学習者の言語や文化を知り、支援の質を高める 2.「I CAN」の洗い出し		小林 久夫	高橋 行弘	
6	令和元年8月27日(火) 14:00～16:00	2	しんじゅく多文化共生プラザ	19	支援方法の振り返り・再構築	1.「I CAN」の洗い出し 2.(新)コミュニケーションシートと名簿の取り扱いについて		赤谷 英貴	高橋 行弘	
7	令和元年11月26日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	12	支援の振り返り	支援の振り返り		小林 久夫		
8	令和元年11月26日(火) 18:30～20:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	12	支援の振り返り	支援の振り返り		小林 久夫		
9	令和元年12月3日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	17	I CANの完成	I CANの完成		小林 久夫		
10	令和元年12月10日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	17	I CANの完成	I CANの完成		内田 雅子	小林 久夫	
11	令和元年12月17日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	15	I CANの完成	I CANの完成		内田 雅子	小林 久夫	
12	令和2年1月7日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく多文化共生プラザ	14	I CANの完成	I CANの完成		小林 久夫		

13	令和2年1月14日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多 文化共生ブ ラザ	17	異文化理解と支 援の質の向上	異文化理解と支援の質の向上を目指して	温 悠	小林 久夫
14	令和2年1月21日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多 文化共生ブ ラザ	16	異文化理解と支 援の質の向上	異文化理解と支援の質の向上を目指して	温 悠	小林 久夫
15	令和2年1月28日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく多 文化共生ブ ラザ	18	令和2年度の事 業計画	令和2年度の事業計画	小林 久夫	赤谷 英貴

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 令和元年6月25日 スタートアップ研修】

- ・第1回、第2回の研修で自主課題としたフィールドワークの結果を共有した。
「新宿は外国人が多い」という漠然とした認識から、自分の目で見て、手に取ることを通じて、それを実感した。
次週から始まる教室に向け、マインドセットや意識の統一を行った。
- ・今年度はじめて支援をするボランティアの不安を取り除くため、経験者から話を聞いた。
受講生は熱心に聞き入り、書き取り、活発に質問をしていた。経験者も質問を受けそれに答えることで、自身の支援の見つめ直しができ、この研修を通じて支援者全体のレベルアップが図れた。



○取組事例②

【第7回 令和元年11月26日 ブラッシュアップ研修】

- ・全20回の教室での支援を前週に終了し、ブラッシュアップ研修初日には振り返りを行った。
朝教室と夜教室とでは地域特性を反映してか、様相が大きく異なった。
前者は「通う」、後者は「来る」というスパンの長短で差異が見られた。このため自然と支援も変容したため、ブラッシュアップ研修では朝教室と夜教室とでグループを分けて実施した。
ボランティアの横の繋がりも重視し、リラックスして参加することで発言しやすくなるよう配慮した。
- ・講師はスピーカーではなくファシリテーターとしての立ち位置で、ボランティアたちの発言を促し、要所を取り上げて議論を促した。
議論の内容には必ず回答や見解、課題を言い切る形(「～と思う」や「～みたいだ」などは禁句)で示し、曖昧さを残さないように気を付けた。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・研修を通じ、今年度の振り返りや来年度に向けての意見交換を十分に行うことができた。
- ・アンケートでは内容に満足したとの回答が多く、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解を深めることができた。
- ・ボランティアからは積極的に研修に参加しようとする姿勢がうかがえた。

(3) 今後の改善点について

- ・積極的に参加しようとするボランティアの意識を、今後もさらに高めていく必要がある。
- ・スキルアップに繋がるフォローの方法について検討していく必要がある。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：】			
目的・目標	平成29・30年度に作成した教材をグループ学習等で使用するため、今年度は作成していない。		
内容の詳細			
実施期間	令和元年 月 日～令和 年 月 日	作成教材の 想定授業時間	1回 時間 × 回 = 時間
対象者		教材の頁数	ページ
カリキュラム案活用			
事業終了後の教材活用			
成果物のリンク先			

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

新宿区は、在住外国人比率が12.4%(平成31年1月1日現在)と高く、国籍は136ヶ国に上り、在住外国人が流動的であるという特色を持っている。そのため、グループ学習を実施している既存の新宿区日本語教室でも学習者の入れ替わりが激しく、日本語能力のレベルも様々である。特に日本語最初級者が入室した場合、ボランティアが彼らへの対応に苦慮している状況が多く見受けられた。このような状況を鑑み、日本語最初級者対象の教室を開設し、彼らが学習しやすい環境を整える。同時に、ボランティアが支援に必要なスキルを習得できるよう支援する。

平成29年度と30年度に日本語最初級者を中心としたクラスを実施してきたが、実際には日本語最初級者とともに、日本語を自己流で習得した外国人が多く参加する結果となった。このような外国人は、日本語最初級者に比べて日本語発話能力にバラつきがあるため、日本語最初級者よりコミュニケーションを取るのが難しい場合がある。そこで本事業では、このような外国人も受け入れ、日本語発話能力のバランスを整える支援活動も実施する。

なお、平成30年度に引き続き、新宿区内の日本語教室と連携して、「はじめてしゃべる日本語クラス」事業を基盤とした地域日本語教室のネットワーク化を図り、「新宿」という地域全体で学習者のニーズに合った教室を選択できるような体制を整備していく。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

平成30年度と同様に朝教室と夜教室の2教室を開設し、前年度に比べ受講者数は、朝教室が6名、夜教室が8名増加した。これはチラシやホームページなどで周知を強化したことが功を奏したと考えられる。また受講者からは、教室に参加する以前より日本語を使うようになった、日本人と話ができるようになった、日本人ともっと話したいというような好意的な意見をいただいた。

ボランティア研修では、既存の新宿区日本語教室との相違点や日本語最初級者に対する具体的な支援方法について共有することができた。また、アンケート結果からも研修内容に満足したとの回答が多く、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解を深めることができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

イラストや写真等を参考にしながら、会話を中心とした教室運営に努めた。受講者には生活に必要な語彙を数多く伝えることができ、ボランティアは具体的な指導方法への理解を深めることに役立った。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

①新宿区地域振興部多文化共生推進課・・・教室の進め方や既存の日本語教室との関係性、今後の方針について随時協議を行い、令和2年度は「はじめてしゃべる日本語クラス」を区の委託事業として継続して実施していくこととなった。

②新宿区日本語教室(SJC)・・・はじめてしゃべる日本語クラス受講生の中から数名、新宿区日本語教室での学習につなげることができた。

③国際日本語普及協会・・・ボランティア研修等の一部を連携して実施した。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

周知・広報については、当財団の広報紙やホームページ、区立施設へのチラシの配架という従来の方法のほかに、外国籍の方が経営する飲食店や物販店等に直接出向き、チラシを配付した。

今後は、はじめてしゃべる日本語クラスでボランティアが習得したスキルを、既存の新宿区日本語教室(SJC)で活かせるように支援を行っていく。

(6) 改善点、今後の課題について

①日本語最初級者がより参加しやすくなる方法等について検討していく必要がある。

②教室運営で得た成果を新宿区日本語教室(SJC)で活かしていけるよう継続して取り組む。

③日本語最初級者を支援することができるボランティアを今後も養成していく必要がある。

(7) その他参考資料

①I CANリスト(朝・夜)

②学習者募集チラシ